



物語 シンガポールの歴史 ～エリート主義国家の200年～

岩崎 育夫 著

180781195 杉本 匠



目次

1. イギリス植民地時代 1819～1941年
2. 日本による占領時代 1942～1945年
3. 自立国家の模索 1945～1965年
4. リー・クアンユー時代 1965～1990年
5. ゴー・チョクトン時代 1991～2004年
6. リー・シェンロン時代 2004年～
7. シンガポールとは何か

シンガポールの始まり

ジャングルに覆われた海賊の島（19世紀）

—マレー人130人

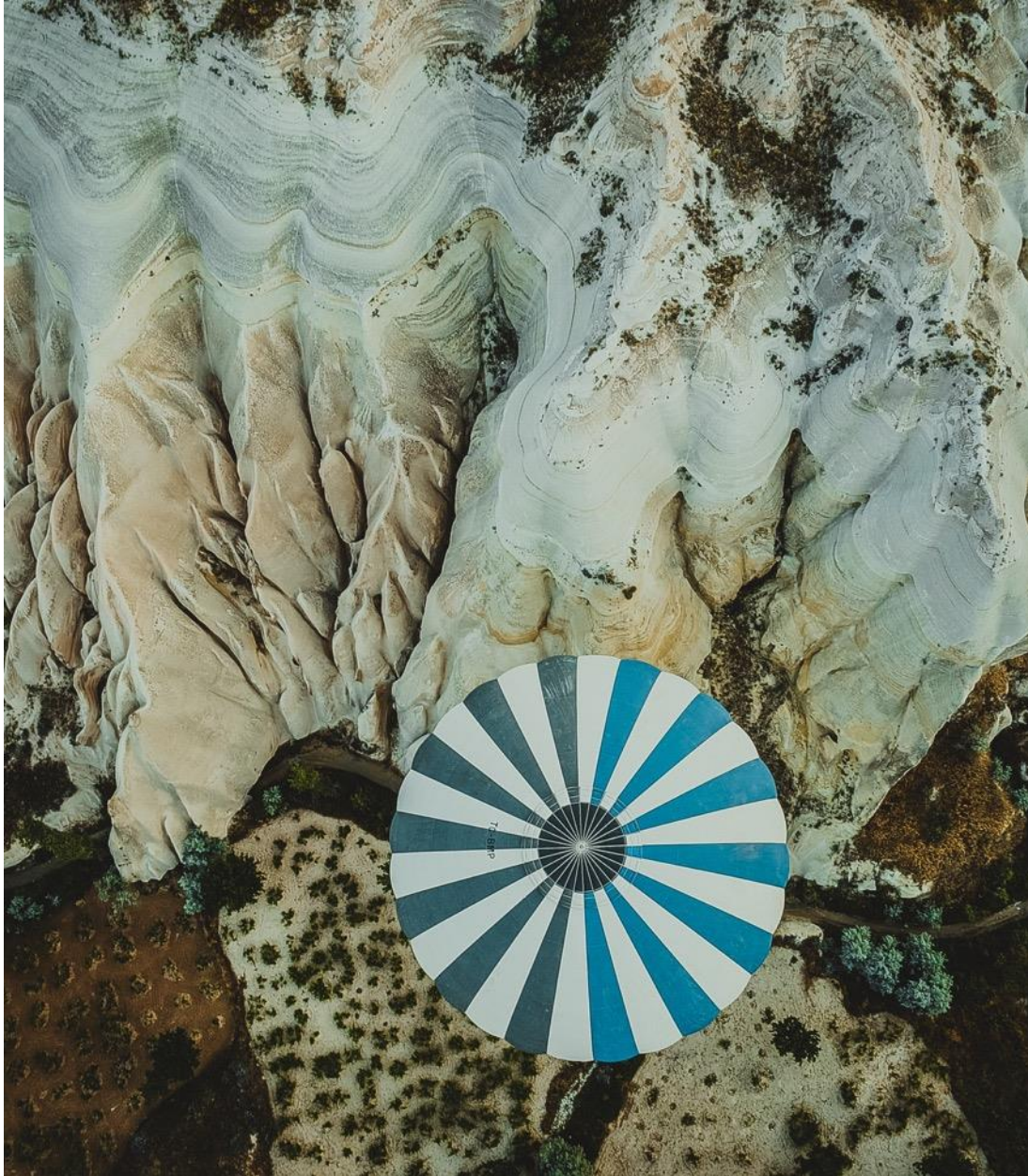
—中国人20人

<イギリス>

アジアの貿易の中継地として植民地化

→アジアや世界各地から移民の急増





第1章 イギリス植民地時代

- イギリスの統治体制
— 民族の棲み分け
- 中継貿易の発展
- グリー貿易
- 華僑起業家の台頭



第1章 イギリス植民地時代

イギリスの統治体制 民族の棲み分け

アジア人移民に対して居住地を指定する政策

- 民族間の争いを防ぐ
- 多様な民族の交わりによる植民地支配の不満を防ぐ
- 住民自治を行わせ分割統治をする

Ex) チャイナ・タウン
リトル・インディア

華僑起業家の台頭

中継貿易など貿易会社で大きくなった中国人の企業家

華僑社会指導者タン・カーキー
ゴム事業のリー・コンチェン一族

- ゴム事業で大成功を収める
- 資金で銀行を作る

* 現在でも巨大な規模を維持している



第2章 日本による占領時代

- 占領下の住民生活
- 自立意識の覚醒



●●●●
第2章
日本による占領時代

1941年 真珠湾攻撃
→同時にシンガポールを空爆
1週間の戦闘で日本軍の勝利

1942年2月～1945年
日本敗戦までの
「3年8ヶ月」日本の
占領

占領下の住民支配

占領期

中国人の粛清

- 60万人の検問
- 反日主義者や共産主義者を処刑

約4万～5万人が処刑されたと言われる

住民を苦しめたもの

- 強制献金
 - 5000万海峽ドルを要求
- 日本化政策
 - 日本語学習
 - 恐怖下の生活
 - 分割統治で中国人を弾圧



自立意識の覚醒

- イギリス支配の140年間

→ 計画的な街や制度の構築 シンガポールの発展に寄与

- 日本支配の3年8ヶ月

→ 住民の生活・社会・秩序 全てを破壊

⇒ イギリスに頼ってはダメ、自分の国は自分たちで統治しようという自立意識の覚醒



第3章 自立国家の模索



- 人民行動党の起こる
- 経済開発政策
- マレーシア連邦の誕生
- リー・クアンユーの挫折

第3章 自立国家の模索

第2次世界大戦の終わり

⇒イギリス軍の植民地復帰

⇒東南アジア各地で独立運動

⇒将来に向け部分的自治権を認める

人民行動党が起こる



リー・クアンユー &
リム・チンチョンの台頭

英語教育集団

→リー・クアンユー
(社会主義社会)

華語教育集団

→リム・チンチョン
(共産主義)

⇒共闘により人民行動党が起こる



リー・クアンユーの挫折

1959年 首相に

経済開発政策

→旧イギリス植民地によるマレーシアの結成

⇒合体してマレーシア連邦の誕生

諸問題によりマレーシア連邦からシンガポールが追放

⇒リー・クアンユーは泣き崩れた
⇒大きな挫折



第4章 リー・クアンユー時代

- 人民行動党の1党体制が続く
- 「生存の政治」をスローガンに
 1. 国防体制の構築
 2. 開発主義
 3. 国民の統合





第4章 リー・クアンユー時代

- 国防体制の構築

アメリカ・ASEANに依存

- 開発主義

経済開発 & 教育制度

- 国民の統合

英語社会化政策 (2言語政策)

表1 政府開発機関の再編・新設

領域	1968年以前	1968年以後	設立年	組織形態	業務	
開発行政	経済開発庁		1961	準政府機関	投資誘致	
		ジュロン開発公社	1968	準政府機関	工業団地	
		国家生産性庁	1972	準政府機関	生産性	
		工業・産業振興庁	1968	準政府機関	工業支援	
		シンガポール標準技術研究所	1973	準政府機関	産業技術	
		シンガポール経営学院	1974	民間企業	経営	
		職業訓練庁	1968	準政府機関	職業訓練	
	貿易		貿易振興庁	1984	準政府機関	貿易支援
			イントラコ社	1968	政府系企業	貿易会社
	金融・通貨		シンガポール開発銀行	1968	政府系企業	銀行
		シンガポール金融庁	1971	準政府機関	金融	
		郵便貯金局	1972	準政府機関	銀行	
		中央積立基金	1955	準政府機関	年金	
		通貨委員会	1967	準政府機関	通貨	
		アジア・ダラー市場	1968	準政府機関	国際金融	
住宅	住宅開発庁		1960	準政府機関	住宅	
労働・賃金	労働3法	雇用法	1968		労働	
	労働関係法	労働関係修正法	1968		労働組合	
企業振興	創始産業法	全国賃金評議会	1972		賃金	
	工業拡大法	経済拡大奨励法	1967		投資奨励	

出所：筆者作成

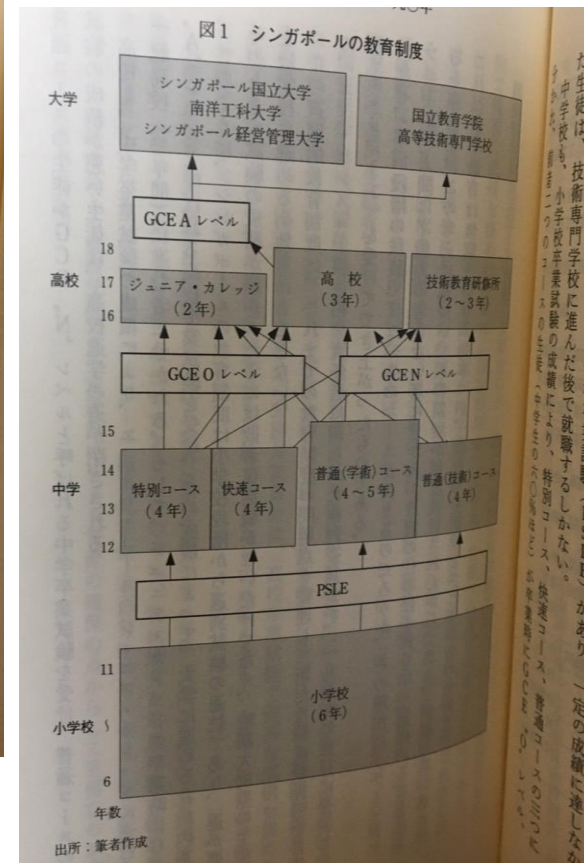


表3 シンガポールにおける各民族の割合 (%)

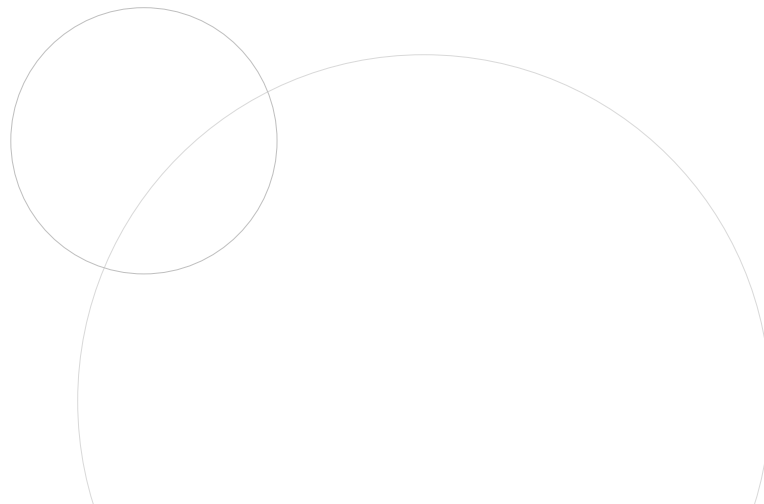
年	1970	80	90	2000	10
中国系	77.0	78.3	77.8	76.8	74.1
マレーシア系	14.8	14.4	14.0	13.9	13.4
インド系	7.0	6.3	7.1	7.9	9.2
その他	1.2	1.0	1.1	1.4	3.3

出所：Census of Population 2010 Advance Census Release



第5章 ゴー・チョクトン時代

- リー・クアンユーからゴー・チョクトン首相に
- 「権威主義」から「自由化」へ – 「ネクスト・トラップ」の発表
- アジアへの経済接近





第5章 ゴー・チョクトン時代

「ネクスト・トラップ」の発表

- 長期政策ビジョン
- 芸術やスポーツの振興

「国民－最も貴重な我が国の資源」

「教育－国民への投資」

「経済－次の時代の経営」

「わたしの家、シンガポール」

⇒シンガポール独自の文化の構築

アジアへの経済接近

- アジア新興国への投資
- 中国・インドへの投資

⇒**国家主導型のインフラ開発**



第6章 リー・シェンロン時代

- リー・クアンユーの長男であるリー・シェンロンが首相に
- 人民行動党の1党体制が続く
⇒政治批判が相次ぐ
- カジノ問題
- 水問題
- 少子高齢化問題
- 政治の分岐点





第6章 リー・シェンロン時代

- リー王朝批判、市民社会運動の発展
⇒ 選挙結果に表れる
- 水問題、カジノ問題
→ マリーナベイサンズの建設
- 深刻化する少子高齢化問題
→ 外国人移民奨励政策
⇒ 政治の分岐点



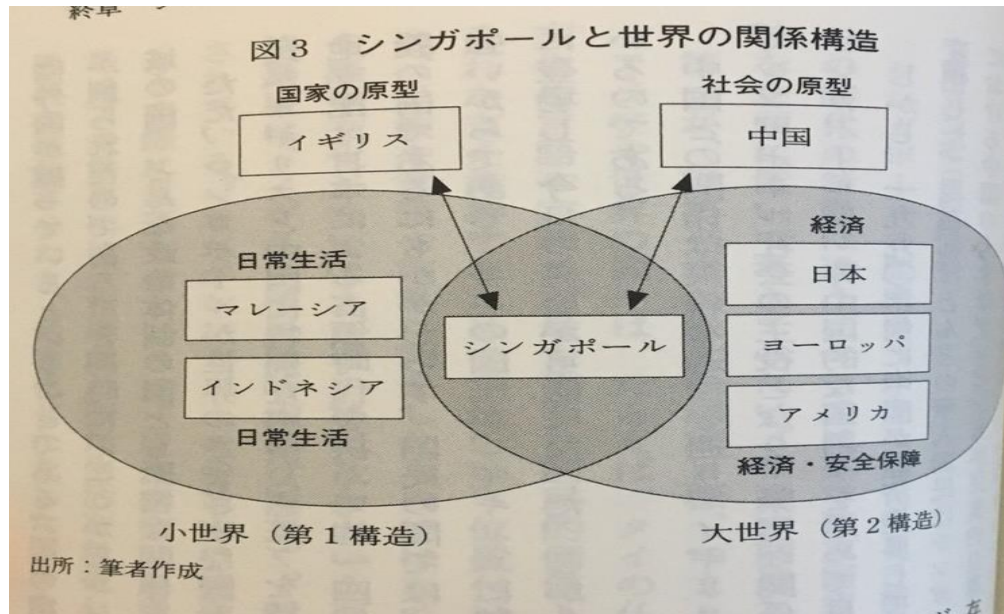
表6 シンガポールの総選挙結果一覧 (主要政党)

年	1955	59	63	68	72	76	80	84	88	91	97	2001	06	11
労働戦線	10	4												
連合党	3	3												
人民行動党 (無投票当選)	3	43	37	58	65	69	75	77	80	77	81	82	82	81
得票率	8.6	53.4	46.5	84.4	69.0	72.4	75.6	62.9	61.8	61.0	65.0	75.3	66.6	60.1
社会主義戦線			13											
労働者党								1		1	1	1	1	6
シンガポール 民主党								1	1	3				
シンガポール 民主連合											1	1	1	
定員	25	51	51	58	65	69	75	79	81	81	83	84	84	87

註：連合党は1959年にシンガポール人民党に改名

終章 シンガポールとは何か

- シンガポールとは特異な国家であること



⇒経済発展が最大な国家目標であること

⇒それにはリー・クアンユー率いる人民行動党が起こしたこと



終章 シンガポールとは何か

- シンガポールと日本

シンガポールを苦しめた侵略者の顔

シンガポールの経済発展を支えた経済大国の顔

⇒経済が豊かで礼儀正しい国というイメージ強い

シンガポールの訪問客も世界第4位の72万人

観光客は減少傾向だが、シンガポールの大学で学ぶ留学生やシンガポールで働くことを希望する人は多い

⇒今までの「量的交流」から1人1人が自分の夢やライフスタイルを追い求め、その実現を目指す「質的交流」に転換してきている



ご清聴ありがとうございました

